



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2025年06月16日 第1221号「週刊五十嵐レポート」

勝てるのかどうか、どこで戦うか

6月13日付日経新聞、「ソニー変革のかじは」というソニーグループ会長のインタビュー記事。

ソニーは今、売上高12兆円、純利益1兆円を超える好調ぶり。しかし2011年度には4千億円の赤字を出すなど経営危機に陥った。出血している時に最優先でやらないといけないことは、止血。赤字だったのは主に「テレビ」と「パソコン」。問題の所在と事業の損益を認識できるように、子会社化して別会社にした。

20世紀のソニーは、シェアを追求した。テレビ、パソコン、スマートフォンなど。しかし、数を追う戦いには強力な競争相手が出てきた。例えば、韓国サムスン電子やスマホでは米アップル。勝てるのかどうか、どこで戦うのか。赤字から立て直すにあたって、社員全員をハッピーにはできないと開き直った。

ソニーは世界で初めてリチウム電池を実用化した企業。スマホなどにも欠かせない技術を売却した。電池からの撤退が一番しんどかった。可能性があり、開発力に自負もあった。しかし、将来性があることと、自社が市場で勝てるかということとは、必ずしも常にイコールではない。当時は、(現在世界シェア首位)イメージセンサー事業に注力し始めたタイミングだった。両事業とも大きな投資が必要であり、選択をした(電池事業を売却、イメージセンサー事業に絞る)。

2015年プレイステーションでテレビ番組などを配信するサービスを始めてが、全く成功せず、20年に撤退。20年前後にNetflixに対抗して配信サービスの市場が激化。米ディズニーやアップルらが参入。ソニーはやらなかった。失敗が生きた。ソニーはアニメや映画といったコンテンツを「つくる領域」では戦う。「届ける領域」では配信サービス会社はパートナー。GAFAM(米巨大IT企業5社)とは戦わない、パートナーである。

勝てるのかどうか、どこで戦うか。強い相手とはともに戦わない。捨てるものは捨てる。世界に行けば行くほど強い相手はゴロゴロいる。地域に根差している小さい会社はしっかり勝てる領域でしっかり勝つ。そんなに難しいことではない。

ちょっと
気になる出来事

6月12日付朝日新聞、「アイフォン 米国製は難しい現実」という記事。

トランプ米大統領が世界に放った高関税政策で、米アップルのアイフォンが注目された。「メイド・イン・アメリカ」の復活を掲げるトランプ大統領はアップルに米国での生産を迫る。

アイフォンは2千点以上の部品でできている。プロセッサは台湾のTSMC、ディスプレイは韓国のサムスン電子、カメラ周りは日本のソニー、他20の国や地域に分散している。更に熟練した人間の手で組み立てる。月400ドル(約5万8千円)で働きたい労働者が米国にいるだろうか。現在の「16PRO」の製造コストは約567ドル(約8万2千円)。米国で999ドルで売られている。米国で組み立てるとしたら、3500ドル(約50万円)を超えるかと試算。

関税を引き上げれば、コストは上がる。トランプ大統領の関税で一番影響を受けるのは、アップルのような米国企業になる。

関税に関して、我々にはどうすることもできない。静観するしかない。



一口メモ
知識

知ること

弟子の子路(しろ)は政務には明るいが直情径行(ちよくじょうけいこう)で心配だから、こう言ってやったよ。

「お前に知るという意味を教えてあげよう。
知っていることは知っていると言い、
知らないことは知らないと言う。
それが知ることなんだよ」とね。

知ったかぶりの政務ほど人民にとって迷惑なものはないからね。

「高校生が感動した『論語』(祥伝社新書/佐久協)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
Tel.03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

